

睡眠指導士がおすすめる 快適な眠りを実現し、30年以上長く使える 羽毛ふとんの選び方

寝床内の快適な状態、温度 33℃
湿度 50%を実現するために…

羽毛ふとんを選ぶときに、どのような基準で選ぶでしょうか？ 羽毛の品質？生地の手触り？特別な加工？価格？いろいろありますが、快適な睡眠を得るという視点から羽毛ふとんを語ることが少ないのです。羽毛ふとんに限らず、掛ふとんに要求されることは

1. 快適な温度を保つ (温度 33℃)
2. 快適な湿度を保つ (湿度 50%)
3. 軽量で身体に負担をかけない
4. 使い心地が気持ち良く、快適
5. メンテナンスが容易
6. 長く、繰り返し使うことができる

選び方 1：自分に合わせて選ぶ

もし、あなたが暑がりだとしたら、最高級の生地と最高級の羽毛を使った嵩高い羽毛ふとんを使ったとしても、おおよそ快適とはいえないでしょう。体質や基礎代謝量には個人差がありますし、住環境によっても大きく変わってきます。それらに合せた羽毛ふとんを選ぶことが大切です。

選び方 2：快適な使用感を大切に選ぶ

羽毛ふとんが良いといっても、側生地がガサガサして寝ていてうるさいのであれば、快適に眠ることとは随分かけ離れてしまいます。快適でストレスの少ない使用感の品を選ぶことは非常に重要です。

選び方 3：長く使うものを選ぶ

良い中身はリフォームをすることにより30年以上使うことができます。地球環境の為にも、これからは、長く使って再利用をしていくことが大切でしょう。

眠りのプロショップSawadaは寝具のグリーン購入を推進しており、店頭で完全直に水洗いによる羽毛ふとんのリフォームに対応しています。



最新型サイクロン式羽毛充填機を導入 羽毛ふとんは羽毛原料から店主がこだわりで選び、作ったオリジナル品です

日本で最高レベルの羽毛ふとんを提供する店をめざそうと、2006年の羽毛リフレッシュマシン導入に続き、2009年7月には、最新式の羽毛除塵機と独立計量式でサイクロン除塵機の付いた羽毛充填機を導入いたしました。これにより、眠りのプロショップSawadaの店頭で販売する羽毛ふとんは基本的にオリジナル品のみで、羽毛の原料から仕立てにいたるまで、最高レベルのモノを提供すべく取組んでいます。



羽毛ふとんは1枚1枚でいねいに仕立てされます

羽毛の量を1g単位で計量し除塵する新型マシン



眠りのプロショップSawadaはチーム・マイナス6%に参加しています



快適な寝床内は温度 33℃湿度 50%

保温性と吸湿発散性を両立させる

最適な羽毛を選ぶ

保温力と通気性を両立させる

保温性の高いステッキーダウン

ダウン同士の絡みが強いステッキーダウンは温まった空気を逃がしにくいので、保温性に優れている一方、嵩はあまり出ないので、通気性を損ねることも少ない。代表格はアイダーダウン。

店主が、毎年ヨーロッパで手に入れるのも、産出量が非常に少ない貴重なステッキーダウンである。

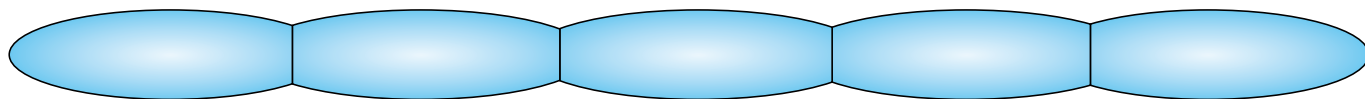


保温力を維持し長期使用を可能にする

ダウンパワー 400 以上のグースダウン

ダウンパワー400のロイヤルゴールドドラベルクラス以上の羽毛、特にグースであれば、ダウンボールが大きいので、重量あたりの保温性が高まる。また、長期間使ってもへたりにくく、ホコリとなりにくい。リフォームも数回可能となるので、コストパフォーマンスも向上する。眠りのプロショップSawadaではダウンパワー400を日常使用する場合の最低基準に設定している。

また、同じ嵩なら良質の羽毛の方が空気をより多く含むので、吸湿発散性も向上する。



最適な生地を選ぶ

ガサガサいわない、ソフトな生地であることは当然のこととして・・・

吸湿発散性を向上させる

通気度の高い (2cc 以上) 羽毛用生地

羽毛用生地には、羽毛の吹き出しを防止するダウンプルーフ加工がなされているが、この加工が強いと通気性を損ねてしまう。特に合成繊維の混紡した素材は、通気度が1cc未満のものも多く、蒸れ感の原因となる。

吸湿発散性を向上させるためには2cc以上のものが望ましい。特にヨーロッパの生地は通気性の良好なものが多いために、梅雨時期なども快適に使える。なおかつ、右で述べる丸洗い可能なものが多い。



オーストリア
HEFEL 社の羽毛生地検査

吸湿発散性を向上させる

軽量 (100g/㎡以下) の羽毛用生地

羽毛用生地は、軽いほど羽毛を押しえつづけることができなく、本来の良さを発揮することができるので、羽毛の量も少なくすむ。その結果、ふとんの空気量が増えるので、湿気の循環がよりスムーズになる。

日本の生地はほとんどが110~150g/㎡だが、ヨーロッパの生地は80~100g/㎡が多くて良好である。

丸洗いを可能にして、長期間快適に使用する

洗濯後通気度 3cc 以下の羽毛用生地

通気度が良いといっても3ccを超えると、羽毛のゴミなどが吹き出し易くなってしまいます。国産生地のほとんどが、洗濯後3.5cc以上になるので、洗濯に適さない。3~5年に一度丸洗いをすることにより、汚れを取り、長く快適に使うことができる。

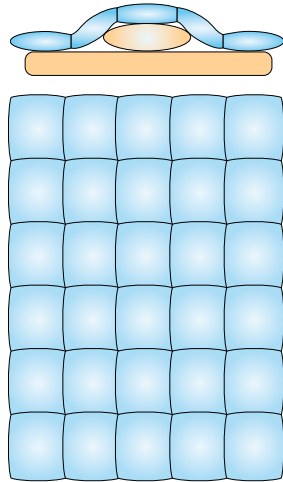
使用10年をめぐりにリフォームをおすすめする。

体質に合わせて、最適な仕立方法と羽毛の充填量を選ぶ

保温力と通気性を両立させる（高代謝量の人）

身体にフィットするキルティング 5×6キルト

暖められた空気を逃がさないように、身体への密着度が高いキルティング方法。マス目が多いので通気性も向上する。フィット性と通気性を両立するので、代謝量の大きな人向け。2010年バージョンからは羽毛の移動が無い完全立体キルト。（一部生地除く）

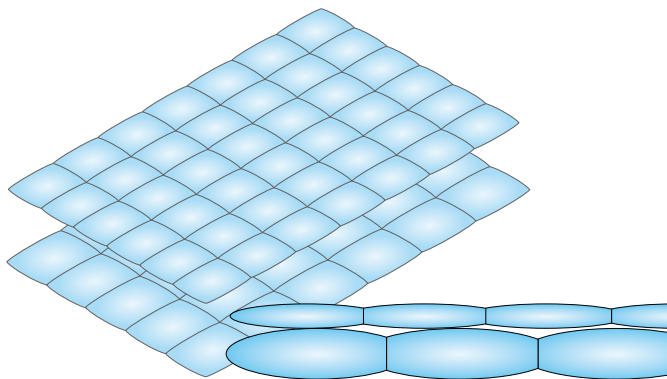


保温力と通気性を両立させる

中厚手と薄手を組み合わせて使う

1枚のふとんで年中使うには無理がある。中厚手となる5×6キルティングの羽毛ふとんと、薄手で6×7キルティングの羽毛肌ふとんを組み合わせることで、オールシーズン対応となる。キルティングのマス目を掛と肌を変えることにより、2枚重ねの場合はより高い保温力が確保できる。

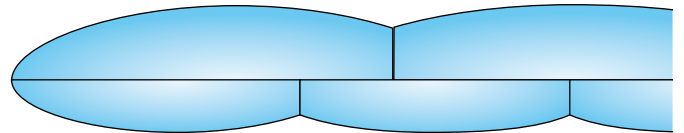
2枚重ねるので、できるだけ軽い生地で、羽毛の量が少なくてもすむ良質の羽毛を選ぶことが重要。



保温力をアップする（低代謝量の人）

嵩高く、保温性の高いキルティング ツインキルト・CONキルト

二層構造にして、上下のキルティングピッチを代える事により、均一の厚さに仕上げ保温力を増すと同時に、体へのフィット性を高める。二層構造なので通気性は低下するので、代謝量の低い人向け。



体質と寝室の状態に合わせた保温力を確保する

代謝の高い人は少なく、低い人は多く 羽毛の良さを生かす最適充填量を選ぶ

羽毛ふとんの最適量は一律ではない。使用する人の代謝量や体温調節能力、寝室の保温性、キルティングピッチ、生地の重量、羽毛の嵩高によって異なってくる。眠りのプロショップSawadaの羽毛ふとんは全てオリジナルの自家製なので、最適な羽毛量をコンサルティングしながら決めることができる。

	充填量少なく <<< 充填量多く
代謝量	高（暑がり） <----> 低（寒がり）
寝室の保温性	高い <----> 低い
キルトのマス	小さい <----> 大きい
生地の重量	軽い <----> 重い
羽毛の嵩高	大きい <----> 小さい

長く使うことがエコ

眠りのプロショップ Sawada のオリジナル羽毛ふとんは

- 10年に一度のリフォーム×2回で30年使用
- 3～5年に一度は丸洗いで清潔に
- 最後は土に還る自然素材100%

大切なことは、長く使うことができるような、素材を選んでいるということ。

素材の再利用をはかることで、ゴミを出さずに環境への負荷を低減することができる。自然素材100%ですので、廃棄する場合でも、最終は土に還るので安心。

理想の羽毛ふとんを作ると、どうなるか？

今まで述べた機能を満足できる理想の羽毛ふとんは何かというと・・・ 次のようなものになります

羽毛

Kauffmann 社ステッキークース

スリープウェル・カウフマン社が毎年1月の Heimtexil見本市に出品するメッセスペシャルの羽毛で、グースながら手選別によって絡みが非常に強いものだけを選び分けた最高級の羽毛。もちろん羽毛そのものの理想からいえば、アイスランド産のアイダーダウンが最高ではあるが、コストパフォーマンスを追求した場合にはKauffmann社の羽毛が最適。

年間数百^キしか採れない貴重で品質の良い羽毛である。



ト。2013年度からは最軽量クラスの#268 (70g/m²)、#198 (80g/m²) がラインナップに登場。

羽毛生地

オーストリア Hefel 社 #158、#268

Hefel社はヨーロッパでも屈指の良質な生地メーカー。#158は重量が85g/m²で国産の生地比べて極めて軽量。しかも通気度が約2.8ccと良好で、なおかつ丸洗いが可能である。より軽量の生地も捨てがたいが、耐久性を含めて考えるとこれがベスト。

キルティング

掛ふとん：5×6 完全立体キルト7cm マチ

又は 変形5×5 完全立体キルト

肌ふとん：6×7 立体キルト2cm マチ

この2枚を組み合わせる。標準充填量は掛ふとんが800～850g、変形5×5だと1000g 肌ふとんが300gだ。

完璧なアフターサービスをあなたに

アクアジェットクリーニングによる

丸洗いサービス

毎日使うモノなので、3～5年に一度の丸洗いをおすすめしています。最も良く洗うことができるアクアジェットクリーニングは弊社へお申し込み下さい。

部分足しサービス

長年使っていると、襟元などがどうしても薄くなりがちです。リフォームするにはまだまだだけど、というお客さまには、襟など部分足しサービスを行っています。全体的に足すことも可能です。お買上いただいた羽毛ふとんの場合は、部分足し加工賃は無料です。(羽毛は実費頂戴いたします)

羽毛リフォームサービス

独ロルヒ社リフレッシュマシーンによる、独立完全直丸洗い+トリプル除塵による店頭でのリフォームサービス

日本では店頭で2台しかない、ドイツ・ロルヒ社の羽毛リフレッシュマシーンを設置、一枚一枚を直洗いするプレミアムダウンウォッシュによる羽毛ふとんのリフォームです。最大の特徴は3段階で徹底的にホコリを取り除く日本唯一のトリプル除塵システムで安心です。



最新型
羽毛除塵機



サイクロン型
羽毛充填機